

あなたと議会をむすぶ

議会広報

平成30年8月23日発行
第155号

あじがさわ

発行…青森県鱒ヶ沢町議会 〒038-2792 青森県鱒ヶ沢町本町209-2 編集…議会広報編集委員会 ☎0173②2111(代)

この広報紙は再生紙を使い、議員の自主編集で発行しています。



鱒ヶ沢高校生との意見交換会を開催

7月18日、鱒ヶ沢高校2学年34人と「みんなで考える20年後の鱒ヶ沢町の未来」をテーマに意見交換会を行いました。鱒ヶ沢町の誇り・残念に思うことをみんなで話し合い、高校生は20年後どんな大人になりたいか、自分の夢やなりたい職業についてそれぞれ模造紙に書き、真剣に話していました。

6月
定例会号

第2回定例会のあらまし	2
新議長・副議長決まる ~新体制スタート~	3~4
一般質問 (町民・町職員37人が傍聴)	5~8
議会活動 管内視察	9
高校生との意見交換会開催	10~11
議会改革 一般質問に関する学習会開催	12

平成30年
第2回
定例会

会期
6月8日～12日

放課後ルーム 児童支援員の資格要件 拡大・変更へ



放課後ルーム応援団が学校へ迎えにいき、ここに子ども館まで歩いて移動（舞戸小学校）

員に繋がるのが期待されます。

今後、資格所有者の増

支援員有資格者は5人。

現在、町の放課後ル

ム応援団13人のうち児童

支援員有資格者は5人。

今後、資格所有者の増

支援員有資格者は5人。

現在、町の放課後ル

ム応援団13人のうち児童

支援員有資格者は5人。

今後、資格所有者の増

支援員有資格者は5人。

現在、町の放課後ル

ム応援団13人のうち児童

支援員有資格者は5人。

月21日

契約金額 1215万円

納車期限は平成30年12

月21日

契約金額 1215万円

納車期限は平成30年12

月21日

契約金額 1215万円

納車期限は平成30年12

月21日

契約金額 1215万円

納車期限は平成30年12

月21日

契約金額 1215万円

納車期限は平成30年12

月21日

本人の意思が不明な場合

我が国においては、平

成22年7月の臓器の移植

に関する法律改正により、

本人の意思が不明な場合

我が国においては、平

成22年7月の臓器の移植

に関する法律改正により、

本人の意思が不明な場合

我が国においては、平

成22年7月の臓器の移植

に関する法律改正により、

本人の意思が不明な場合

我が国においては、平

成22年7月の臓器の移植

に関する法律改正により、

臣、厚生労働大臣

【提出先】衆議院議長、

参議院議長、内閣総理大

臣、厚生労働大臣

【提出先】衆議院議長、

参議院議長、内閣総理大

臣、厚生労働大臣

【提出先】衆議院議長、

参議院議長、内閣総理大

臣、厚生労働大臣

【提出先】衆議院議長、

参議院議長、内閣総理大

臣、厚生労働大臣

【提出先】衆議院議長、

参議院議長、内閣総理大

臣、厚生労働大臣

平成30年第2回定例会が6月8日から12日まで開かれました。開会初日に、平田町長から学校給食の異物混入事案について調査結果等の報告がありました。本定例会では、放課後児童支援員に関する条例改正、補正予算の議案など9件、議員発議として意見書案1件が上程され、最終日、本会議において審議の結果、全会一致により全て原案どおり議決されました。11日の一般質問では、議員4人が移住対策、学校給食の異物混入などについて町政へ問いました。（質問内容は5ページから掲載しています）また、最終日には、一戸千代久議長の議長辞職に伴い、議長選挙が行われ投票の結果、長谷川統一議員が新議長に選出されました。

【第2回定例会で決まった主なこと】

放課後児童支援員の資格要件拡大・変更へ **可決**

国の放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正により、放課後児童支援員

の資格要件として、新たに5年以上、同事業（町では放課後ルーム）に従事した者で、町長が認める者へと拡大されました。

平成30年度一般会計補正予算を増額 **可決**

一般会計予算は、りんご生産者の機械リース費用支援（県補助事業）など1707万6000円を増額補正し、歳入歳出総額が64億9707万6000円となりました。

▼財産の取得 **可決**

可燃ごみ収集車購入 **可決**

可燃ごみ収集車購入にあたり指名競争入札の結果、いすゞ自動車東北（株）青森支社五所川原営業所と締結することにしたものの。

▼人事案件 **同意**

固定資産評価審査委員会委員の選任 **同意**

固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い、次の方を引き続き、選任することに同意しました。（再任）
安田 正美 氏
日照田町

▼意見書案第3号 **可決**

臓器移植の環境整備を求める意見書 **可決**

【内容】臓器移植の普及により薬剤や機械で困難であった臓器の機能回復が可能となり、多くの患者の命が救われている一方、臓器移植ネットワークが構築されていない外国における移植は臓器売買等の懸念を生じさせ、人権上ゆゆしき問題となっている。

我が国においては、平成22年7月の臓器の移植に関する法律改正により、本人の意思が不明な場合

でも家族の承諾により臓器を提供することが可能となった。しかし、臓器提供数が、臓器移植希望者数を大きく下回っており、その理由としてドナーや臓器提供施設が少ないことが指摘されている。

よって、国において国民の臓器を提供する権利、臓器を提供しない権利、移植を受ける権利及び受けられない権利を同等に尊重しつつ、臓器移植を国民にとって身近なものとして定着させるため、臓器移植に係る更なる啓発に努めること、臓器提供施設に対し、きめ細かな支援を行うこと、移植コーディネーターの確保を支援すること、臓器移植施設の担当医の負担軽減対策及びネットワークの構築されていない国で臓器移植を受けることのないよう必要な対策を講ずることを求めるもの。

【提出先】衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣

選挙により新議長・副議長決まる

各委員会構成 新体制でスタート



副議長
鶴田悦子

就任あいさつを述べる
鶴田副議長



議長
長谷川統一

議長就任あいさつに臨む
長谷川議長

本定例会最終日、一戸千代久議長の議長辞職を許可した後、議長選挙が行われました。投票の結果、長谷川統一議員が9票、無効3票となり、同議員を議長に選出しました。長谷川統一議員の議長就任に伴い、副議長が欠員となったことから、副議長選挙を行い、投票の結果、鶴田悦子議員が9票、無効3票となり、同議員を副議長に選出しました。また、各委員会委員の任期満了に伴い、新委員を選任し、町議会は新体制をスタートさせました。正副議長、各委員の任期は平成32年3月30日までです。
(新委員は4ページに掲載)

就 任 あ い さ つ

住民の声を町施策へ反映 提言する議会へ

平成30年6月、第2回定例会において、議員各位の推挙によって副議長の重責を担うことになり、身にあまる光栄に存じます。

町行政は少子高齢化や労働人口の減少を憂え、それらに待たなしの状態で手を打たなければ、町が無くなってしまおうそれがあると、懸命に諸

施策や諸準備を進めているのではないのでしょうか。そうした姿勢に対して、住民のご協力がなければ、容易になし得ない面もあるかと思えます。

住民の代表である議員も同様に、行政の監視に止まることなく、限られた財政の中で、住民の声を行政施策等に反映させることが大切であると思

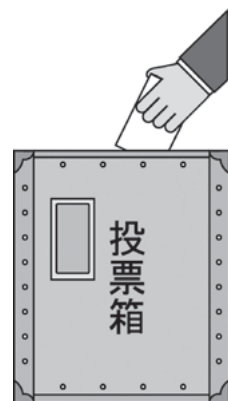
住民に寄り添った議会づくり 一層、議会改革を推進

平成30年鯉ヶ沢町議会第2回定例会において、多くの議員の皆さんのご推挙により議長に就任いたしました長谷川統一です。

身に余る光栄に存じますと共に、責任の重大さをこれまで以上に感じ、身の引き締まる思いであります。

さて、全国的に議員の身に残る光栄に存じます。当町においても、婦人団体との意見交換会、夜間議会の開催など少しずつではありますが、議会改革に取り組んでまいりました。

今後は、この改革をより一層推し進め、議会活動をしっかりと明文化したいいわゆる議会基本条例制定に向け、粉骨砕身努力してまいります。今後は、今後とも町民皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



委員会構成

各委員会の構成は、次のとおりとなりました。
今後、議員任期までの2年間それぞれの委員会活動に取り組んでいきます。

議会運営委員会

(定数5名)
委員長 新保 勝敏
副委員長 齋藤 孝夫
委員 東條 一彦
委員 洪谷 悦男
委員 今 勝義

議会運営委員会は、議会運営の最高責任者である議長の諮問的な性格を帯びた機関であるとされています。

議会を円滑かつ効率的に運営するため、委員会では会期日程、議案や陳情の取り扱いなど、議会運営全般に関する事項について協議を行います。

総務文教常任委員会

(定数6名)
委員長 菊谷 忠光
副委員長 神 孝
委員 新保 勝敏
委員 鶴田 悦子
委員 坂牛 淳治
委員 長谷川統一

総務文教常任委員会は、総務、教育、税、消防事業分野などの案件を詳しく審査し、併せて所管事務調査等を行う委員会です。

産業建設常任委員会

(定数6名)
委員長 今 勝義
副委員長 東條 一彦
委員 洪谷 悦男
委員 一戸千代久
委員 齋藤 孝夫
委員 世永 富也

産業建設常任委員会は、建設、農林水産、水道事業分野などの案件を詳しく審査し、併せて所管事務調査等を行う委員会です。

鯨ヶ沢町議会改革特別委員会

新委員長に
菊谷忠光委員を選出

長谷川統一委員長が、6月12日に議会改革特別委員会委員長職の辞任願を提出したため、同日、委員会を開催しました。

委員会では、委員長の辞任の件を議題として諮り、許可することに決定しました。

その後、新委員長に、菊谷忠光委員が満場一致をもって選出されました。

(定数6名)

委員長 菊谷 忠光
副委員長 東條 一彦
委員 今 勝義
委員 新保 勝敏
委員 鶴田 悦子
委員 長谷川統一
(長谷川委員長は、一委員として所属します)

議会改革特別委員会は、議会改革に関する調査検討を行う目的で、平成28年6月定例会において設置されました。
委員会に付託された次の5項目について、今後継続調査していきます。

【付託案件】

- ◇議会活動に対する住民理解の促進に関すること
- ◇議会活動の広報広聴機能の充実強化に関すること
- ◇議会活動の公開性向上に関すること
- ◇議会議事運営の効率化に関すること
- ◇その他議会改革に関すること

第3回定例会のお知らせ

議会の傍聴にお越しく下さい



第2回定例会は、婦人団体の傍聴が多くありました。ありがとうございました

誰が、どんな質問をしているの？

議会ですべてを話しているの？

議会日程は、議会運営委員会において正式に決定されます。
開催日程、一般質問の議員氏名、質問事項については町防災無線、町ホームページでお知らせします。
詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

- ▼9月7日(金)開会予定
《開会後の日程は次のとおりです》
- ▽11日(火) 一般質問
- ▽12日(水) 総括質疑
各常任委員会
決算特別委員会
討論、採決、閉会
- ▽13日(木)

一般質問



菊谷 忠光議員

6月定例会では、4人の議員が質問しました。一般質問では町の行財政全般に関し、町長の考えや町の政策方針を問います。

移住相談の対応や定住戦略の考えは 答へ相談窓口を開設し、総合的に取り組む

町の移住相談の対応は

問・我が町に移住を希望されている方、興味のある方の問い合わせなどの対応のため、専門の窓口が新設されたようですが、その業務内容はどのようなものか説明願います。

答弁・平田町長

これまで移住に関する問い合わせについて、政策推進課で行っていましたが、今年度、同課内に新設した地域経営戦略班が、移住に関する業務を担当することになりました。

現在、相談窓口開設に向けて作業を進めているところで、その業務につ

いてより広くアピールしていきます。

業務内容は、住まいに関する業務として、鰯ヶ沢町のアパート情報などを町ホームページに住まいの情報として掲載して

います。また、就業情報として、ハローワークが発行している求人情報を掲載するとともに、ハローワークのホームページにも誘導しています。

また、西北五圏城市町

で連携して作成した「西北津軽移住定住ガイドブック」に鰯ヶ沢町の暮らし情報を公開し、東京有楽町の東京交通会館内にある「ふるさと回帰支援センター」に、青森県への移住希望者の相談窓口があるため、担当職員と連携を密にして、移住に関する鰯ヶ沢町の情報を提供していくことも業務として進めています。

さらに、首都圏での移住相談会や市町村のPRなどをする機会もあり、県や西北五圏城市町と連携する事業も含め、鰯ヶ沢町に関する移住関連情報を周知したいと考えています。

移住者を増やすための戦略は

問・移住者及び問い合わせ件数を増やす戦略は考えているのか説明願います。

答弁・平田町長

まず、現状の移住に関する課題として、鰯ヶ沢町の暮らしに関する情報発信が非常に弱く、また、空き家の情報量が少ないことが挙げられます。

要するに、ほかの地域とは違う鰯ヶ沢町の魅力をうまく伝えられていないというところが大きな課題だと思っています。

移住のための住家探しについては、五所川原市を中心とした周辺市町による五所川原圏域空き家バンク制度がありますが、それとは別に、鰯ヶ沢町独自の空き家バンク制度を設け、空き家情報を発信し、移住者及び問い合わせ件数の増加に繋がると考えています。

問・具体的に相談件数、移住者数の数値目標を掲げる考えはないですか。

答弁・平田町長

移住者数を目標値として設定し、取り組むこともひとつだと思いますが、まずは、総合的な取り組みにより、町の魅力づくりを進めていきたいと思っています。

意見・田舎暮らしのすばらしさをアピールし、定住につながることは、鰯ヶ沢町の未来に向けてとても重要です。

新設された担当部署には、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

※菊谷議員は、このほかにも次のような質問もしています。

◆ご当地グルメの開発について



これまで空き家所有者からの問い合わせがあり、空き家バンク制度開設に向けて作業が進められています



東條 一彦議員

小・中学生の登下校時の安全確保を 答へ〈関係機関と連携し、対策を検討〉

登下校時の防犯対策・安全対策は

問・今年5月、新潟市で女子小学生が誘拐されるという悲しい事件や、児童の列に車が突っ込むといった事故が発生しています。町内の児童生徒にも突然襲って来るかもしれません。

小・中学生の登下校時の防犯対策と安全対策はどのようなになっているかお聞きします。

答弁・阿彦教育長

防犯対策について、教育委員会では、小学校の新一年生に防犯笛などの防犯関連グッズを提供し、防犯対策の一つとして活用しています。

また、学校では、警察署の協力を得ながら交通安全指導や不審者対応など



警察署と町担当課等が合同で通学路を点検

どの防犯指導を随時行っています。

さらに、西北管内で発生した不審者情報も西北

教育事務所から提供され、

速やかに町内各校に情報

提供し、注意喚起を促し

ています。

なお、役場職員に対しても、

公用車利用の際は、

子どもたちの見守りにについても注意を払って移動

するよう協力をお願いしています。

交通安全対策については、

平成27年度に鯉ヶ沢

町通学路安全推進会議を

設置して、通学路の安全

対策に関する対応協議な

どを行ってしています。

具体的には、小学校な

どから通学路において対

策が必要と思われる箇所

を提示してもらい、その

箇所を会議構成機関で

ある、教育課、建設課、

鯉ヶ沢警察署交通課、西

北地域県民局地域整備部

などが合同で現地点検を

行い、具体的な対策を検

討し、安全な通学路への

改善に繋がっています。

また、学校においては、

新学期早々に教職員が、

児童と一緒に歩いて登下

校の指導を行い、バスに

関しても一緒に乗車して

具体的な乗り方、降り方

などの指導を行っていま

す。

そのほか、教職員によ

る街頭指導、地区によ

ってはボランティアによる

見守り活動も実施されて

います。

学校給食の異物混入 事後の対策は

問・5月21日に発生した鯉ヶ沢中学校の学校給食異物混入事案について、その経緯と原因の説明、今後の対策についてお知らせください。

答弁・阿彦教育長

鯉ヶ沢中学校の給食のしょうゆ卵焼きの中に異物が混入しているという事案が発生しました。発

見した2人の生徒は、と

もに口に入れる前に気づ

き、担任の先生に報告し、

その後、給食センターと

教育委員会に報告があり

ました。給食センターで

異物を確認したところ、

長さ2.5センチメートル

ほどのポリエチレン片

のようなものであること

がわかりました。

給食センターでは、当

日の作業手順や、異物混

入につながるミス等がな

かったか確認したうえで、

異物がしょうゆ卵焼きの

中から見つかったということから、製造過程で混入した可能性が高いと見て、製造業者に調査を依頼しましたが、製造業者においても、異物混入の発生原因の特定には至りませんでした。

今後の対策については、「学校給食における危機管理マニュアル」に定められた異物混入の防止、異物混入が発生したときの対応策を徹底し、安全、安心な給食の徹底に努めます。

また、いままで以上に給食センター、学校、教育委員会の連携強化と情報の共有を図り、異物混入等が発生した場合には、保護者に対して速やかな情報提供と説明に努め、給食に対する不安軽減を図り、給食に対する理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

意見・異物混入の原因究明とその改善策や再発防止策の徹底をよろしくお願いたします。



鶴田 悦子議員

人口減少問題について、町の対策は 答へ必要な対策は、地域経済の活性化へ

出生率減少と死亡率増加の対策は

問・出生率減少と死亡率増加の問題ですが、これまで、出生が減少して子どもが少なくなっているにもかかわらず、高齢者の長寿もあり、町の人口減少があまり問題にされていないように思います。

出生率減少と死亡率増加に対して、町はどのような対策を考えているか
お聞かせください。

答弁・平田町長
出生率の減少については、全国的に少子化が進行している中、これまで町が取り組んできた出産子育てに関する支援策をこれからも継続実施してまいります。

具体的には、母子支援センターの産前産後ケア、一時預かり保育や病後児保育、ベビー用品リユース、乳児紙おむつの支給。また、子育てサポートセンターによる子育て家庭の育児相談のほか、中学生までの子ども医療費の無料化などを行っております。

今後子どもを産んで育てやすい鯉ヶ沢町を目指して取り組みを進めていきます。

死亡率の増加については、高齢化も進んでいまずので、その対策は重要で取り組んでいかなければなりません。

平成26年に、「あじがさわ健康宣言」を行い、健康づくりの推進、検診受診率の向上による若年者の死亡者抑制、また、介護予防事業を進めて、健康で長生きできる鯉ヶ沢町を実現する取り組みを行ってきました。

新聞等で発表された平均寿命を見ると、鯉ヶ沢町の男性は前回調査に比べ、1.9歳の伸び、女性には、1.0歳の伸びとなっていて、長生きしている人は増えていきます。引き続き、健康づくり事業を推進してまいります。

働く場所、雇用の場の創出は

問・人口減少の原因は様々ありますが、町に働く場がないことから、若者が地元にとどまることのできない。人口減少問題については、働く場の雇用の場の創出が先決ではないでしょうか。

町長はどのように考えているかお聞かせください。

答弁・平田町長
人口の減少を極力緩やかなものにしていきたい。福祉、医療、介護、保健事業の充実はもちろんですが、町への移住者を増やすため、町に魅力がなければなりません。真っ先に必要な対策は、地域経済の活性化ですが、魅力的な町をつくっていくかなければと考えています。



舞戸地区では、空き店舗を利用した新規開店者が徐々に増えています



長谷川統一議員

短期・中期・長期の計画づくりが必要 答へ住民の声を反映させ計画を作成したい

新しい町づくりに
向かう計画を

問・これからの町運営を
考えると、短期・中期・
長期でのハード面ソフト
面、両面の計画づくりが
必要であると思います。

今後の計画的な町づく
りを考えると、一日でも
早くこの計画を完成させ、
新しい町づくりに向かう
べきと考えますが、町の
考えはどうかお答え願ひ
ます。

答弁・平田町長

鱈ヶ沢町の総合的な計
画として「第5次鱈ヶ沢
町総合計画」があり、人
口減少問題の克服を目的
とした「まち・ひと・し
ごと創生鱈ヶ沢町総合戦
略」があります。

いずれも、鱈ヶ沢町の
将来を見据えた、まちづ

くりの指針となる計画で
あると考えています。

ただ、これだけ時代が
目まぐるしく変わってく
るとなると、それに応じ
た具体的な施策、政策が
必要になってくると思ひ
ます。

町長になって、やはり
具体的な町のデザインが
必要であるという思ひも
あり、現在この二つの計
画の再検証を図ったうえ
で、ハード面ソフト面、
両面にわたる短期・中
期・長期の計画づくりを
政策推進課中心に庁内一
体となって進めていく考
えです。

キーワードとなるのは、
まちづくりの3つの目標
である、鱈ヶ沢プライド、
鱈ヶ沢ブランド、鱈ヶ沢
ライフだと思ひています。

意見・※PDCAサイク

ルの手法が機能するよう
に、計画づくりの部門と
チェックや検証部門を分
けて計画を練り直してほ
しいと思ひます。

※PDCAサイクルとは、
計画、実行、評価、改善
の4段階を繰り返し、継
続的に業務を改善してい
く手法をいひます。

住民のニーズ把握 が必須であると思 うが

問・計画づくりのために
は、現在町が置かれてい
る実情を知ることが必須
であると思ひます。

たとえば、地域住民の
ニーズの把握などがあげ
られると思ひますが、ど
のようにしてこのニーズ
を把握するのをお答え願
ひます。

答弁・平田町長

町では町政懇話会を住
民の意見を聞く場として
開催していますが、なか
なか住民の方が集まらず、
意見もなかなか出ない状
況にあります。

そのため、今後は、懇
話会の開催方法等を検討
していきたいと思ひます。

一方で、さまざまな会
合、集まりがありますの
で、その会合に積極的に
参加するなどして、いろ
いろな人の意見を聞くこ
うのもひとつの方法だ
と思ひますし、地域ごと
の取り組みを知り、地域
のみなさんの声を吸い上
げて計画に反映させてい
くことが必要だと考えて
います。

また、長谷川議員から
提案のありました町職員
が各世帯を訪問するもの
一つの手ですが、集落支



昨年はまちづくり懇話会として開催。会場数を増やし7日間で119人の参加がありました

組んでいきたいと思ひま
す。

援員制度のように、地元
の方が地域住民の意見を
まとめ、町へ繋いでいく
手法なども含め、検討し
ていきたいと思ひます。

※長谷川議員は、このほ
かにも次のような質問を
してあります。

意見・住民の代表である

議会としても、住民の声
を拾いながら、住民ニー
ズを把握し、行政に対し、
政策提言を図るよう取り

◆新庁舎建設について
◆社会教育の推進につい
て

◆コミュニティ・スクー
ルについて

管内視察

赤石溪流線道路・新庁舎建設予定地を視察

6月13日、議員10名参加のもと、議員管内行政視察が行われました。

視察場所は、昨年度視察した赤石溪流線県代行工事現場・新庁舎建設予定地の2カ所で、加藤副町長、議会事務局が同行しました。視察場所では、それぞれ担当課から現況の説明を聞きまし

■赤石溪流線道路

平成27年2月の土砂崩落発生で通行止めとなっている赤石溪流線県代行工事の進捗状況を確認しました。

昨年と比べて、川岸に建設された橋台の地盤が高く盛りられていました。

担当課からの説明で、今後は、橋の上部工の工事、付替え道路の路盤改良を実施する予定で、平成31年夏の開通を目標に道路改良事業が進められていることがわかりました。

各議員からは、通行止め区間にある赤沢橋の耐久性や赤石溪流線開通時期について質問がありました。

赤石溪流線の通行止めにより、くろくまの滝へ立ち入ることができないため、トレッキングやアウトリキ客が減少し、町の観光産業にも影響が及んでいます。地域住民はもちろん観光客が安心して通行できるよう、安全な地域道路の開通が望まれます。

今年度の視察



橋台の上から現場を確認
(橋の架設は12月完成予定)

昨年度の視察



川岸に建設された橋台コンクリートの下で説明を聞く

■新庁舎建設予定地
(旧鱒ヶ沢第一中学校グラウンド跡地)



グラウンド跡地内で庁舎建設配置を確認

平成33年5月に高台移転となる新庁舎の建設予定地、旧鱒ヶ沢第一中学校グラウンド跡地で、担当課から基本設計配置計画案の図面を基に説明を受けました。

説明では、体育館と技術棟以外の既存校舎や相撲場などは解体されることとした。

そのほか、建設予定の庁舎本体、車庫や倉庫などの配置について図面と合わせて現地を確認しました。

新庁舎建設事業

新庁舎建設基本設計・実施設計者は、※プロポーザル審査の結果、最優秀者の株式会社楠山設計青森事務所と決まりました。(平成30年3月28日契約)

今後の予定スケジュール

▼6月・7月 町民ワークショップ開催(新庁舎に求めるもの等、参加者から意見を聞きました)

▼8月 新庁舎建設基本設計期間

▼9月から平成31年3月まで 新庁舎建設実施設計期間

▼平成31年度 新庁舎建設工事開始

▼平成32年度 新庁舎建設工事了

※プロポーザル審査とは…建築物の設計者を選定する際に、複数の中から優れた技術提案を行ったものを設計者として選定すること。



山村開発センターで開催しました

意見交換会

20年後の町の未来は



意見交換会は、席替えをしながらテーブルごとに話し合うワールドカフェ方式。席替え後、テーブルに残った一人が、書かれた意見について紹介しています

7月18日、町議会では「みんなで考える20年後の鱈ヶ沢町の未来」をテーマに、鱈ヶ沢高等学校2学年（以下「鱈高生」）と意見交換会を開催しました。

昨年、町議会は鱈ヶ沢町高校生模擬議会を開催しましたが、今年度は議員と高校生が同じテーブルにつき、今後のまちづくりを考えるとともに、町議会が若い世代の意見を聞き、その考えを政策形成に反映させることを目的に鱈ヶ沢高等学校との共催で開催したものです。

意見交換会の参加者は、計64名。
町議員10人、鱈高生34人、進行は、青森中央学院
町若手職員10人、青森中 大学の佐藤淳准教授が務
中央学院大学の学生10人の めました。

初めに、長谷川統一議

長が、鱈高生に鱈ヶ沢町のことを知ってもらいた
め、スライドを使い、町
の概要、取り組みについ
て紹介しました。

次に、6〜7人ずつ10
のテーブルでテーマごと
に話し合いました。

高校生は、大人と一緒に、自分の住む町、学校生活を過ごす町について考えることで、いろいろな視点、考えを知り、自分の将来に向き合うよい機会となったようです。

町議会としては、将来を担う若い世代の考えや声を聞くことで、地域住民の意見を広く受けとめ、今後のまちづくりや政策形成につなげていくこととしていきます。

参加者からの声

意見交換会に参加されたみなさんの声を10・11ページで紹介します。

◎高校生

・これからの自分に必要なこと、もっと良い町にするためにすべきこと、自分の将来に大きく関わることをつかりと話し合うことができました。

・いろいろな新しい発見をすることができ、大人とコミュニケーションをとることは大切だと気づかされた。

・20年後、町の人口が半分ほどになると聞き、いろんな所から移住者を募り、人口を増やせばよいと考え、鱈ヶ沢の情報発信をよりよくしていかなと移住者は増えないと思う。

・残念なことは就職先が少ない、人口が少ない。町はPRできるところが

たくさんあると思うので、人口を増やすことができると思う。

・今回のような意見交換会を増やせば地域での交流が増えると思う。

・この意見交換会を続けてほしいと思う。幅広い年齢層の意見を聞くことができるのと同時に、改善点などを考えることはよい町にしていくために必要なことだと思った。

・残念なことで、人口が減少していけば、町の伝統など引き継ぐことができなないので、人口をふやす方策を考える必要があると思った。

・普段議員の方々などのような話をしていくか分かった気がして、いい経験になった。大学生とも交流でき、年齢はそれほど離れていないが、考えることや意見などが高校生とは全く違い、就職後のことまで計画を立てていてすごいと思った。



将来について真剣に考えました

鯨高生 × 町議会

みんなで考える

<テーマ>

- ①鯨ヶ沢町の誇りに思うこと、残念に思うことは何ですか？
- ②20年後、どんな大人になっていたいですか。
- ③そんな20年後が実現するために、今取り組まなければならない一歩はなんでしょう。大人に応援してほしいことは何ですか。大人が応援できることは何ですか。



一つのテーブルに、議員・町職員・大学生が各1人、高校生3～4人が座りそれぞれの考え、意見を交わしました

誇りに思うこと

- ・自然豊か(白神山地)
- ・農水産物が豊富
- ・海も山もあってうらやましい
- ・スポーツ有名(相撲・水泳・空手)
- ・ヒラメのツケ丼(3万食)
- ・スキー場有名
- ・外国人客ふえている
- ・特産品多い
- ・わさお
- ・バスが安い(100円)

残念に思うこと

- ・海が汚い
- ・ごみが多い
- ・子どもが少ない
- ・遊び場が少ない(高校生などが遊ぶところがない)
- ・バス、汽車の本数が少ない(五能線がすぐとまる)
- ・町を離れる人が多い
- ・PR不足、PRが下手
- ・人口減少が進んでいる

どんな大人になっていたいですか

- ・結婚して子どもが2～3人ほしい
- ・優しい大人
- ・農業をする
- ・親を支える
- ・人助けができる大人
- ・県内に住み続ける
- ・自分の意見を言える人
- ・安定した収入がほしい
- ・自立していけるような大人

- ・優しい保育士・歯科衛生士・小説家・マンガ家・看護師
- ・隊長になる(自衛隊)・ゲームクリエイター・救急救命士

町外の生徒が外からの視点で良い所・悪い所の意見を多く出し、大変参考になった。

・様々な年齢層との意見交換は楽しいと思った。自分自身を見つめ直す機会にもなった。

□職員
・県内に残りたいと思っている生徒が、県外進出希望の生徒より、目標・考えが具体的だと感じた。

若い人の考えや意見を良く受け取ることができた。

・高校生の感想で将来のあり方を考えられる良い機会になったと感じた。

○議員
・高校生は私たちよりも鯨ヶ沢の良い所、残念な所を見ていて自分の考えもしっかり持っている。目標、夢を持って話をしてくれた。今度は違うテーマでもやってみよう。

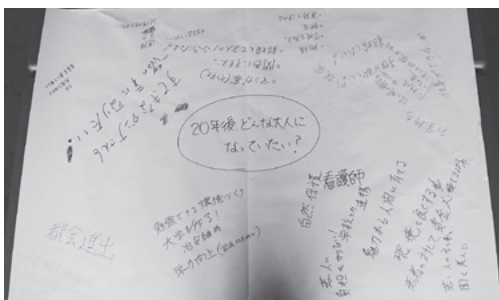
◆大学生

・高校生が地元についてどのように考えているか知れてよかった。

・様々な年代の考え方を知ることができた。

・高校生が家族、先生以外の大人と話しいい機会だった。こういった場を増やすと高校生も勉強になると思った。

・高校生は目標ややりたいことを持っている、県内就職を考えている人が多かった。県内に残る若者が増えて、青森県を盛りあげればと思った。



議会改革
学習会

一般質問の質向上 議会力アップへ



より良い質問で、議会力の向上へ

学習会では、一般質問の必要性や議事機関としての議会の責務について講義いただきました。はじめに、基本に戻り、一般質問の根拠法令などを確認し、議会は議事機関として設置され、議論して決めたことには責任を持たなければならないこと。また、議会の成果は住民福祉の向上にあり、その実現を目指して町の施策、事業を監視するとともに、政策提案していくことが一般質問の機能であることを学びました。次に、残念な



昨年に引き続き、佐藤先生の講義を受けました

6月21日、青森中央学院大学准教授の佐藤 淳先生を講師に招き、「どうする、どうやる、一般質問」をテーマに議会改革学習会を開催しました。この学習会は、町議会改革特別委員会に付託された案件「議会議事運営の効率化」における一般質問の効率化を検討するとともに、議員の質問内容の向上に繋げることを目的に行われました。

そのほか、他の市町村議会の取り組みの説明の中で、議会基本条例に一般質問に対する町の回答について、経過等を検証することを明文化している議会。また、行政側が検討するなど答弁した事項について、その後の対応、進捗状況等の結果を書面で確認する制度や、過去一年以内に質問した内容を追跡質問できる制度を取り入れている議会があることがわかりました。最後に、講師から町議会に対して、一般質問を個人の議員の問題として終わらせず、議会の取り組みとしてチェックを行い、議会全体で振り返る場が必要との助言をいただきました。

一般質問、もったいない一般質問の具体的な例を挙げ、良い一般質問をするためには、立場が違っても共有できる「事実」をしっかりとらえた質問を行うことが大事であると講義がありました。

議員からは、自身の経験で一般質問に対する町側の答弁がかみ合わない場合の対策や、紹介された他議会の取り組みについて質問がありました。



講師への質問のようす



特集「まち再発見」は休載しました

次号の予告

議会改革特別委員会では、7月25日から26日までの二日間、議会改革の先進地である北海道芽室町議会・浦幌町議会を視察しました。

次号では視察の様子を議員リポートとしてお届けします。

浦幌町議会



芽室町議会

